



もう帰ってこないのは解っているのに、今日も帰宅途中の高校生の中に拓也を探している。

「腹へった、今日は何」と言う声をもう一度聞きたい。

平成9年4月24日、横断歩道で事故に遭い「覚悟をしてください」と何度言われても、我が子が死ぬとは思わなかった。

意識は戻るとお守りを手に巻き付け、頭をなで足をさすり「苦しいと言ってごらん」「お母さんと言ってごらん」と耳元でささやいた。

けれども一度も目を開けることもなく、言葉を交わすこともなく5月8日天国へ旅立って逝きました。

高校二年生16歳になったばかりで、その日は弓道場で連続15射して、道場の壁に拓也の札が掛けられました。

拓也は自分の力で生きた証を残していったね。

せめて修学旅行と全国大会には、行かせてあげたかったよ。

加害者は免許停止にも関わらず、親が「あの車は縁起が悪い」と新しい車を買って与えられていました。

その時の裁判で、張り裂けそうな苦しみと悲しみが押し寄せましたが、担任の先生から拓也が制作した「体育祭の旗」を見せて頂くと、「七転び八起き」と書いてありました。

友人たちは揃って「拓也と一緒にいると本当に面白くて楽しかった」と、話してくれました。

拓也が命をかけて伝えたかったことは、「社会のルールを守ろう」

それは誰もが「命を奪うために生まれて来る命も、命を奪われるために生まれて来る命もないんだ」と、社会のルールを守れば被害者も加害者も出ないと気づかせてくれたね。

きっと拓也が生まれてきたわけは...

「しあわせの種を蒔く事、蒔き終わったので元の場所に帰って行った」と考えることにするよ。

そして、体育祭の旗に「七転び八起き」と家族に最後のメッセージを届けてくれて、本当にありがとう。

拓ちゃんへ

転んでも 起き上がって

生きていきます。

拓也の家族だから。

